

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

373号

2022年3月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 積弊勢力の政権奪還を許してはならない

第20代大統領選挙の投票が3月9日に実施される。与党「共に民主党」の李在明候補と最大野党「国民の力」の尹錫悦候補が、直前の世論調査でも李候補が40.5%、尹候補が41.9%（2月24日付リアルメーター）と大接戦となっている。

### ●「政権交代論」のトリック

世論調査では政権交代論が根強く、それが野党尹候補への追い風になっている。尹候補は当初は「398候補（世代別支持率で20代3%、30代9%40代8%）」と言われていたが、その後、若者の支持率を大きく向上させた。

政権に問題があれば選挙で交代させるのは当然だ。しかし、韓国社会の問題をすべて現政権の責任と押し付けて、政権交代するべきだというのは暴論だ。文政権は「平等、公正な社会の実現」という公約を果たせなかったけれど、不平等、不公正な社会をつくった政権ではない。現政権を不正な無能政権だと批判して、代わりに不正・腐敗の大御所が登場してくるのは喜劇を観ているようでもある。しかし、その喜劇のような暴論が保守言論によって大きな世論になってしまった。

尹候補は問題発言が非常に多い。「滅共（共産主義を滅ぼす）」「朝鮮への先制攻撃論」などの時代錯誤的な好戦的発言や「女性家族部廃止」などの低い人権感覚、政府与党を「無知な三流のバカども」と罵倒して、あげくの果てには文政権を「積弊」と規定し、自分が大統領になれば「積弊」を捜査するとまで言い放った。ここまですれば失言、暴言の域を超えて、大統領としての適性

を問われても当然なのだが、何故か問題は大きくならず支持率も下がらない。妻が株価の不正で巨額の利益を得た疑惑が報道されても深く追及されることなく、同時に李候補の疑惑が報道され、どちらも同じだという雰囲気（ムード）がつくられている。

検察と一体となったメディアが全面的に尹候補を擁護している。莫大な選挙資金と巧みな世論操作によって、尹候補は予想以上の善戦を維持している。清算されるべき積弊（分断特権）勢力が、総力をあげて政権奪還作戦を実働させているのだ。

### ●政権交代は反革命

文在寅政権に多くの国民が失望したのも事実だ。2年前の総選挙で国民から180の議席を与えてもらったにもかかわらず、改革は遅々として進まず、朴槿恵の赦免、遅すぎた李石基(イソッキ)前進歩党

議員の釈放、国家保安法撤廃の棚上げなどの後退ぶりにイライラした人は少なくないだろう。しかし、だからといって反革命ともいえる政権交代が実現してもいいのだろうか。

前検事総長の尹候補は検察主義者だ。検察とはいかなる集団か。権力機関であり、分断既得権勢力だ。尹候補が大統領になれば検察共和国が完成し民主主義が大きく後退し、平和・統一運動、労働運動がまた再び厳しい冬の時代を迎えるだろう。

悩みながらも、最終的には国民は賢明な選択を下すだろう。文政権に失望した人も、投票日には次期大統領にキャンドル革命の後継者を指名するだろう。

歴史は人をつくり、人がまた歴史をつくる。

私は歴史を信じ、民衆を信じる。（隆）



▲李在明候補



▲尹錫悦候補

## 各界代表を招き

### 大統領選挙への期待などを共有する 2022年韓国大統領選挙を考える集い

3月9日に行われる第20代韓国大統領選挙をひかえ、韓統連大阪本部主催で「2022年韓国大統領選挙を考える集い」が2月20日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

集いでは初めに、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「今回の大統領選挙は今後の韓国社会の将来だけでなく、南北関係、韓日関係にも影響を与える重要な選挙になります。今日の集いを通じ大統領選挙の現状と展望について認識を共有しましょう」と語った。



#### ▲各界代表を招いてのパネルディスカッション

次に、第1部として「自主・民主・統一から展望する韓国大統領選挙」をテーマに、金昌五(キム・チャンオ)大阪本部副代表委員が情勢講演を行った。金副代表は講演の中で、韓国社会における自主・民主・統一運動の発展と過去の大統領選挙について解説するとともに、今回の大統領選挙の歴史的意義について▲独裁政権への回帰を二度と許さないこと、▲積弊勢力の清算を本格的に推進すること、▲平和と繁栄の新たな時代、▲自主的民主政府と連邦制統一へと進むことと指摘、「大統領選挙は文在寅政権の政策を引き継ぐのか、政権交代なのかが焦点になり、接戦が予想される」と語った。

そして私たちの課題として「どのような結果であれ、朝米対話の再開、南北関係の改善、朝日ピョンヤン宣言の履行など、これまでの私たちの運動を継承・発展させることが大切だ」と主張した。

集いの第2部では、李哲(イ・チョル)ウリ民主連

合会長、梁千賀子(ヤン・チヨナジヤ)民族講師、趙映和(チョ・ヨンファ)韓青大阪府本部委員長を招いてのパネルディスカッションが行われ、各パネラーから第20代大統領選挙に対する考えと民族教育の保障をはじめ次期政権の在外同胞政策への期待などが語られ、最後に金昌範(キム・チャンボム)大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行い、集いは終了した。

## 和やかな雰囲気の中、新成人者を祝う 2022年韓青成人祝賀会

2022年を迎え韓青関西地域協議会主催で「2022年成人祝賀会」が2月6日(日)、小田北生涯学習センター(尼崎市)で開催された。

成人式では、張敦悻(チャン・ドンゲ)韓青京都本部委員長代行が主催者挨拶を行い「成人祝賀会を通じて韓青と出会ったことを、今後より多くの同胞青年と出会うきっかけになってほしい」と語った。

次に、韓成祐(ハン・ソウ)韓青中央本部委員長の挨拶の後、韓統連大阪本部から成人者に記念品の贈呈と金隆司代表委員から「成人を機に民族との出会いを積極的に作ってほしい」と祝辞が語られた。



#### ▲新成人者を中心に記念写真

その後、レクレーションが行われ、続いて新成人者から「参加してとても楽しかった。これから自分に合った仕事を見つけて、韓青にも参加したい」などの抱負が述べられ、最後に趙映和(チョ・ヨンファ)韓青大阪府本部委員長が閉会挨拶を行い、成人祝賀会は終了した。

## 日本軍「慰安婦」問題解決のために30年間闘った尹美香議員”除名”の危機

### 「共に民主党」は尹美香議員除名処理を即刻中止しろ！

去る1月25日、共に民主党の宋永吉代表が党刷新案発表時、唐突に尹美香議員らの懲戒決議案の迅速な処理を発表した。1月27日には倫理委員会（委員長：金振杓 民主党）が開かれた。尹美香議員は2020年9月「韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）」の代表在任中、寄付金・助成金などの不正流用疑惑などで、野党国民の力の主導で懲罰動議が発議されていた。当該案件は現在裁判が行われており、検察側の主張が覆る証言が出るなど検察側の無理な起訴が明らかになりつつある中で、性急な処理だった。告発した国民の力所属の委員も「急すぎて準備ができていない」と戸惑いを見せた。

尹美香議員への魔女狩りの攻撃は2015年12月28日に発表された日韓「慰安婦」合意の問題点を挺対協が指摘した直後から始まった。

「オンマ部隊」と呼ばれる保守女性団体が、集団で挺対協事務所に集団で押しかけ「合意」を受け入れろと圧力をかけるなどの事案が頻発するようになった。韓国の国家情報院が日本の右翼団体「公益財団法人 国家基本問題研究所（理事長：櫻井よしこ）」に尹議員の動向に関する情報を提供していたことが明らかになった（韓国MBC放送、2021年8月10日放送PD手帳・日本軍「慰安婦」問題解決全国行動HP視聴できます。日本語字幕付）

2020年4月15日に行われた韓国総選挙で「共に市民党」比例代表で当選したころから、フェイク情報があふれるようになり、日本のテレビ放送でも取り上げられるようになり、尹美香当選者（当時）のイメージダウン競争が始まった。もともと韓国の選挙制度の改善のために比例代表連動制が導入されたが、自由韓国党が制度を悪用して衛星政党の比例代表だけの「未来韓国党」を創党したことから、共に民主党は広く市民団体に呼び掛けて「共に市民党（比例連合政党）」が作られた。尹美香議員は請われて入党を決意した経緯

がある。選挙後、共に民主党と合党して共に民主党所属議員として環境労働委員会で議員活動を始めた。以下の記述は2021年10月5日に報道された朝鮮日報の記事の見出しだ。

「単独 尹美香、慰安婦寄付金を横領し、カルビ食って、指圧、訴状に横領内訳・・・217回に分けて計1億ウォンを個人の用途に使った」などと裁判中の案件を事実のように報じている。このようなことが繰り返し報じられたが、後日、事実無根であることが判明している。

2019年9月頃から曹国法務長官問題が論議

を呼び、尹議員と絡めて共に民主党へのマスコミ攻撃が激化する中、世論の悪化を懸念した与党指導部は尹議員に離党を勧告した。尹議員はその後無所属で活動していたが、今回の宋代表の発言によって議員除名の危機に立たされた。大統領選挙を前に票欲しさに尹議員をスケープゴートするのかの声が市民団体からも

上がっている。共に民主党の背信行為ともとれる今回の行為を見逃せない。少なくとも判決を待つべきだろう。

尹美香議員の「慰安婦」問題解決のために献身した30年を誰も否定できないだろう。国連、EU、米州などで「慰安婦」被害者の名誉回復のための活動を通じて、戦時下の性暴力の禁止と女性の人権問題として、人類の共通課題に引き上げた功績を認めて共に民主党も比例候補に選んだことを忘れてはいけない。

今、内外の多くの市民団体や個人が今回の除名処理に反対している。日本をはじめ米国、ドイツ、豪州などから除名反対の声が韓国国会に向けられている。今、倫理委員会では第2小委で尹議員の懲罰審理を集中的に行うことが決まっている。委員会で除名が決まれば本会議の3分の1以上の賛成で処分が決まる。議員除名の暴挙を許してはならない。（李鐵）



▲尹美香国会議員

## 【投稿】

## 大阪府庁前は交流、連帯の場となった

中山茂(中大阪朝鮮初級学校とともに歩む会)

大阪府庁前の昼休みに火曜日行動が始まったのは2012年4月17日だった。朝鮮学校の高校無償化適用、大阪府、大阪市の補助金支給の復活を求めて要請行動として始まった。朝鮮学校の学父母(保護者)や関係者、日本人支援者で始まり、2月1日で457回目となった。毎回30人ほどが参加し、朝鮮学校の生徒も数十人、80人と参加する時もある。



▲火曜行動に参加する朝鮮高級学校の生徒たち

私は1回目から参加している。50回(約1年)ごとに集会やデモをやってきた。私も含め参加者は年末には終わると思って始めたが、理不尽にも今日まで続いている。

孫をハッキョ(朝鮮学校)に通わすハルモニ(お婆さん)との出会いが思い出深い。子供、孫を全てハッキョに通わすハルモニは、ハッキョに対する思いも強い。いつも自転車で大阪城横の坂道を登りながら参加されていた。当時80歳近かった。私たちでもあの坂はつらい。聞くと「ずっと登ってきたから平気や」とおっしゃっていた。

ある保護者の男性が「朝鮮人は天から降ってきたのでも、地から湧いてきたのでもない。日本の植民地支配の結果、日本にいるのだ」とマイクでしゃべっておられた。説得力ある発言だった。生徒たちも積極的に発言している。初級学校の生徒も「なぜ差別するのですか」と堂々と発言し、高級学校の生徒は「私たちは、お願いしているのではない。行政が朝鮮学校を支援するのは当然のことだ。我々の当然の権利ではないのか」と訴えた。



日本人は「日本人の問題だ」と発言する人が多い。行政の朝鮮人差別、排外主義行政は日本のすべての人たちへの行政の縮図であり、これを通すことは日本社会の更なる悪化、後退を意味するからだ。

ある在日朝鮮人の詩人の方(元ハッキョの国語の先生)は初めて日本語で詩を創作し、大阪府庁前での感動的な出合いを朗読された。

また日本の人とこんなに話したことはなかった、と言われたハルモニもいた。「近所の日本人とはあいさつ程度だった」という。運動や家族、教育の事など大阪府庁前での話は尽きない。

日本人も様々な運動に関わった人たちが参加し、交流の場でもある。私も様々な市民運動の人たちとの交流が深まった。最後の申し送りの場ではチラシの配布や署名の訴えも盛んにおこなわれている。



▲ブログで「イケメン3人衆」と紹介される左側から中山さん、館山さん、李鐵さん

火曜日行動のブログもある。「ニョニョのひとりごと」と題して、「ハルモニ会」の人たちが協力して毎週更新されている。

火曜日行動は高校無償化、補助金が復活するまで続けられる。全員がその覚悟で府庁前に立っている。



## 【コラム】

## 好太王碑の高句麗建国神話

高句麗の首都だった国内城（中国吉林省通化市集安）には414年に建てられた好太王碑（広開土王碑）が今も存在する。広開土王の死後、その王陵の近くに建てられた広開土王の功績碑であるが、その碑文には高句麗を建国した鄒牟（チュモン、朱蒙）の神話も記されている。

高句麗の建国神話は他の文献史料も多く、この碑よりも成立が古い史料もあるが、建年のはっきりしている貴重な一次史料として、今回はこの神話について少し触れてみたい。

「昔を惟んみるに、始祖鄒牟王の創基や、北夫余より出ず。天帝の子、母は河伯の女郎。卵を剖きて世に降る」

鄒牟の出生に関する記述である。これを見れば、始祖の鄒牟は北扶余（松花江流域にあった古代国家）の出身であり、天帝の子として生まれたことが分かる。母は河伯（河の神）の女郎とあり、他の文献史料にならえば、河伯の娘と解釈できる。『牟頭婁墓誌』や2012年に発見された集安高句麗碑では、鄒牟を「河伯之孫」とする記述も見えるため、間違いないだろう。日本の建国神話で神武天皇の母が海神の娘だったことと類似する。

いずれにせよ高句麗建国の始祖である鄒牟が、自然界における超越的存在の血脈を受け継いだ人物として讃えられている。

また鄒牟は「卵を剖きて」、すなわち卵から生まれたことが伝えられている。卵生神話は東アジアを含む多くの地域の神話と共通する。新羅や伽倻の建国神話にも類似する話がある。

さらには「世に降る」と記される降臨の神話でもある。天人が現世に降臨する話は檀君神話を思わせるものがある。

「…駕に命じて、巡幸して南へ下り、路は夫余の奄利大水に由る。王、津に臨みて言いて曰く『我、これ皇天の子にして母は河伯の女郎たる鄒牟王なり。我が為に葭（よし）を連ねて亀を浮かべよ』。声に応え即ち、葭を連ねて亀浮かぶ。然る後に造めて渡る」

続いて、鄒牟が生まれて以後の事績が記述され

ていく。まずは鄒牟が北扶余から南へと下っていったことが記されている。途中で扶余の奄利大水（松花江）と呼ばれる大きな河に至り、おそらく河を渡る手段に困じたのであろう。自らが天の子であり河伯の孫であることを訴えたところ、ヨシや亀が水上に道を作り、ようやく河を渡ることができた。水中生物が水上に道を作る説話も、また聞いたことがある話だ。

「沸流谷の忽本の西、山上に城し、ここに都を建つ。世位を楽しまず、天は黄龍を遣わし、来下して王を迎えしむ。王は忽本の東の丘に、龍首を履みて天に昇る」

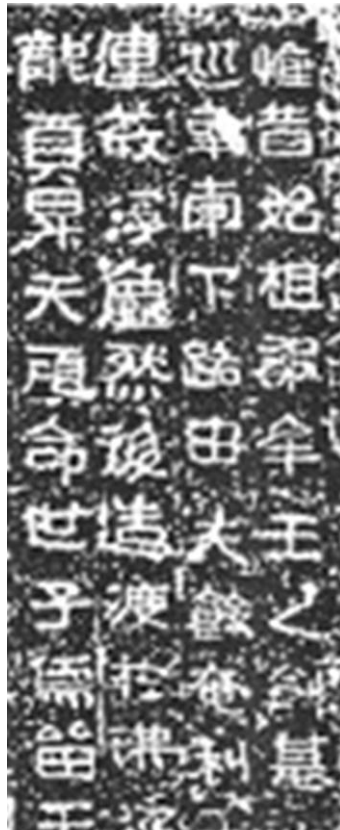
国都建設の記述である。沸流谷忽本は鴨緑江の支流である渾江流域の桓仁県と考えられている。初期高句麗時代の遺跡である五女山山城がある。

この記述では鄒牟は忽本に都を建てて王となったが、残念ながら王位に留まるを可としなかったようだ。天に遣わされた黄龍が迎えに来て、都の東の丘から黄龍に乗って天へと昇っていったとある。

建国の始祖が国を建てた後に天に昇るという神話もまた多い。新羅の始祖である赫居世の神話にも「国を理めて六十一年にして、王、天に升る」（『三国遺事』）とある。

以上、簡単に高句麗の建国神話を見てきたが、この神話は当時から広く知られたものであり、中国の歴代正史や日本の『続日本紀』にも記されている。当時の東アジアにおいて共有された認識のひとつであると評価できるだろう。神話の類型が受容され伝播していった様子も窺える。

我が国の神話といえば檀君神話が真っ先に思い浮かばれるが、それ以外にも古代国家たる高句麗・百濟・新羅・伽倻の神話などが挙げられる。これらも我が国の歴史を振り返るにあたり、貴重な価値があるものと言える。（好）



▲碑文拓本



## 【読書紹介】

## 西大門刑務所の黙示録

著者:坪井兵輔

かもがわ出版 1980円

私が小学生の時、「地獄の黙示録」というアメリカ映画が話題になっていました。ベトナム戦争の悲惨さと戦争の狂気を描いた傑作ですが、子供だった私には怖い映画だという印象しかありませんでした。

大人になっても何かの題名に「〇〇の黙示録」があるのを見ると妙に怖さを感じたり、何か不吉な内容なのかあと身構えていました。

しかし、本来「黙示録」は「黙って示した記録」、すなわち予言を意味するもので、決して悪い意味だけでなく、むしろ逆境を克服し未来を切り開いていくことを表す意味にも使われるということを最近知りました。

坪井兵輔著「西大門刑務所の黙示録」にも「黙示録」の文字がついているのを見て、読む前は重い内容の話だと感じました。

しかし、読んでいくうちに「分断克服に生命を賭した在日の行動する良心」という副題にもあるように、元在日韓国人死刑囚の一人の生き様や祖国と民族への切実な思いと大国に翻弄された朝鮮の近現代史が見事に合わさっていることに気づきました。

私自身19歳の時に「護憲撤廃！独裁打倒！」を叫びながら「政治犯を一刻も早く釈放せよ」と集会や街頭で声を上げていた一人でしたので、康宗憲先生をはじめ多くの政治犯の先生方の救援運

動に関わるのは当然でした。

そして、1987年6月民衆抗争を経て民主化が達成されたと思ったのも束の間の夢で、政治犯はすぐには釈放されませんでした。

希望と絶望の間で過ごされていた政治犯の先生方のことを思うと、私の努力がまだまだ足りないからなのかと、そんな罪悪感に似た思いが募るばかりでした。

現在、康宗憲先生をはじめ元政治犯の先生方の多くが再審で無罪判決を勝ち取っています。

一方、思想だけで死刑判決を受ける法律がいまだに存在している韓国という国を忘れてはなりません。

以前ある講演会で康宗憲先生は「刑務所は社会の縮図」だと述べられていました。その「縮図」を象徴するような、ある人物の描写を本より引用します。いつの時代にもそのような人間が

いることを。

—高麗人参輸出業を営む紳士は賄賂で有罪判決を受けたが著名な弁護士を雇い、一週間で出獄する。康宗憲さんは毎日「講義」を受けた。「康君、世の中はカネだよ。特にここ韓国ではね。みんな平和を望むわけじゃない、対立や戦争は儲かるんだよ。私は賄賂を贈って拘留されたけど賄賂でここを出る。君も事業を学んで金儲けをしなさい。金こそ正義だし、正義は買えるんだよ—

(高弘)



## ◆◆行事予定◆◆

## ドキュメンタリー映画「私はチョンソンスラムです」大阪上映会

日 時：4月24日(日)

第1回上映：午前10時20分～正午

トークショー：午後12時20分～午後2時

司会：金聖恵(「私はチョンソンスラムです」日本語字幕担当)

発言：李哲(在日韓国良心囚同友会代表)/李香代(大阪朝鮮高級学校オモニ会元役員)

金隆司(韓統連大阪本部代表委員)

第2回上映：午後2時20分～午後4時

場 所：東成区民センター大ホール(地下鉄今里駅2番出口から徒歩3分)

料 金：前売り：1000円 当日：1500円 高校生以下は無料

主 催：同実行委員会 TEL06-3711-6377

